

2019年度 三重教区「差別と人間を考える」協議会 公開学習会

水平社宣言と同朋会運動

同朋精神の回復と教団改革

2019年10月17日(木) 14時～

日程 14:00 開会 14:10 講義 15:00 休憩 15:15 講義・質疑応答 16:00 閉会予定

「人間を尊敬することによって人間を回復する」

講師 藤井慈等氏 (南勢2組 慶法寺住職)

会場 三重同朋会館 3階講堂

「難波別院輪番差別事件」を契機に部落解放同盟による第1回糾弾会が開かれてから50年。

糾弾会の直前、当時の大谷派同和会(*1)が警鐘を発して提出した「建議(*2)」には、「いまわれらが教団の内と外に直面している反真宗的事象を見るとき軽々しく「御誕生八〇〇年」「立教開宗七五〇年」などというも空々しいこととあります」「糾弾」から半世紀、「御誕生八五〇年」「立教開宗八〇〇年」を迎えようとしている私たちの歩みと態度はいかなるもののでしょうか。

「同和」運動推進の母胎となる同朋会運動の展開の中で、宗憲が変わり、制度や慣習も変わりました。

しかし水平社以来の「是旃陀羅」問題の提起を受けて、改めて私たちの同朋精神喪失の事実が指摘されています。寺を取り囲む環境が様々に変化しても、寺と寺に寄る者が変わっていないのではないのか。そのような反真宗性の内省によって、ようやく回復すべき人間像が明らかになってくるのではないのでしょうか。

2022年の水平社創立百周年を迎えるにあたり、「宣言」を手がかりに、宗祖が御同朋御同行とかしづかれた精神を確かめ、真宗門徒として人間を回復していきたいと思えます。

同朋精神の喪失、反真宗的事象、その回復こそ「同朋社会の顕現」に努める同朋教団の改革といえます。

教団改革は決して他人事ではなく、私たち一人ひとりが同朋精神を回復するということであり、私一人が真宗門徒となっていく歩みでありましょう。

このたび、「差別と人間を考える」協議会は2019年度の総会に併せて公開学習会を開催します。

どなたでもご聴講いただけます。ご参加をお待ちしております。

*1 大谷派同和会

大谷派における部落差別問題への取り組みの創始者といえる武内了温。その運動の象徴ともいえる真身会の再発足という形で、1954年に武内を顧問として生まれた団体。

*2 「建議」

「難波別院輪番差別事件」の惹起により糾弾を開始した部落解放同盟奈良県連合会から大谷派同和会に対して、大谷派の態度を明らかにすべく内局に要請すべきという意向を受け、教団の部落問題に対する無関心さに警鐘を発するとともに、内局に対してその具体的政策の実施・実現を要求した。

真宗大谷派三重教区「差別と人間を考える」協議会